

兵庫縣漁業慣行錄

鹹水漁業之部

卷之六

1

8

9

兵庫縣漁業慣行録卷之六 鹹水漁業之部

攝津國八部郡

第一章 漁制

第一款 掟類

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁税ニ關スル事

駒ヶ林村

寛永年間銀六百八匁米五石五斗大鯛十五枚ヲ毎年青  
 山播磨守へ上納セシカ正徳元年代官小堀仁九衛門ノ  
 代右運上ヲ免除セラル寛延二年代官瀧邊民部ニ銀六  
 十四匁寶曆三年代官萩原藤七郎ニ銀八十匁明和二年  
 ノ項代官飯塚伊兵衛へ銀百十六匁七分四厘安永二年  
 代官辻六郎九衛門へ銀百二十三匁七分九厘天保三年

ノ項代官齋藤六藏へ二百二十五匁三分ヲ納メタリシ  
 カ維新後モ其儘繼續シテ上納シ明治六年ニ至レリ而  
 シテ今年ヨリ今一年迄ハ金八十五錢ヲ納メタリシカ  
 今九年太政官布告ニヨリ海面ヲ拜借シ拜借料金七十  
 錢ヲ納ム今十二年七月ヨリ漁夫一人ニ付金五錢宛ヲ  
 納メリ

東須磨村

本村漁業ハ明治三年ヨリ創始セシモ今九年ニ至リ海  
 面ヲ借區シ爾後其料金トシテ年々金二圓ヲ上納ス十  
 二年七月以後ハ漁夫一人ニ付金五錢ヲ年々納メリ

西須磨村

天保年間ヨリ運上トシテ年々金四十九匁維新後明治  
 八年迄八年々金八十四錢ヲ納ム今九年ヨリ海面ヲ拜

借シ借用料トシテ年々金五圓ヲ納ム今十二年七月以  
 後ハ一人ニ付金五錢ヲ納メリ

茅二款

規約及慣例

茅一項

保護ニ關スル事

駒ヶ林村

漁法 維新前ニハ彼岸ヨリ入梅迄鮫、鰯ノ夜漁ヲ禁シ  
 タリ是其産卵ノ生長ニ害アルヲ以テナリ○地引大  
 小網トモ區域ヲ定メス互ニ沖合ニテ魚族ノ群集ス  
 ルヲ目撃シタル者ヨリ網ヲ投ス然レモ甲先キニ目  
 撃シタルヲ乙ノ者甲ニ先テ捕獲スルモ其場所ニ  
 於テ臨機ノ處分ヲナスト雖モ大抵其捕獲物ヲ折半  
 シテ之ヲ甲ニ分與スルヲ例トス

西須磨村

漁期 鯨魚ハ十一月ヨリ来ルモ冬至迄其他ノ魚モ其  
 来聚後大抵十日乃至十五日間ハ生長ノ時日トシテ

系

言下  
計より三

捕獲セス 安政年中ノ規約ニシテ現行ス ○玉筋魚ハ寒前ヨリ生産

スルモノナレ氏三月ニ入ヲサレハ一切之ヲ捕

ルヲ許サス但其期ハ大抵浦役等重立タル者時機ヲ

見計ヒ指揮スルモノトス 元久

漁具 鯛魚漁網ハ其目四寸ヨリ小ナルヲ許サス 元久

項ノ規約ニシテ現行ス

漁場 字シヲセヨリ字瀬戸筋迄凡一里ノ間ハ章魚生

長ノ為ノ九月ヨリ翌年五月迄其漁撈ヲ停止ス 古来

現行ス

漁法 地引大網ハ各漁者甲乙丙ト各別ニ其使用場ヲ

定ム 方言 口但是ハ當日限りノ一ナリ且各一回其

所ニ於テ使用スレハ其後ハ適宜トス ○地引小網ハ

別ニ場所ヲ定メス魚族ノ群集スル所ヲ目撃セシ者

ヨリ網ヲ投ス但甲ノ者目撃シタル所ニ於テ乙先ツ

捕獲スルハ其漁獲物ヲ折半シテ甲ニ分與スルヲ

例トス方言之ヲ「シナ」ト云フ

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

駒ヶ林村

本村漁場ハ東ハ兵庫和田岬字「ナ」上ケ立岩ヨリ西ハ

攝播境ノ堺川ヲ限りトス又沖合ハ東端ヨリ凡四里半

ヲ出テ魚島「高取」モタレトス又「高取」モタレヨリ西須磨

村沖合字沖ノ瀬マテハ古来兵庫及東西須磨村ト入會

ナリ但明治九年沿海村々海面借區ヲ許サレ從來ノ漁

場モ沿海町村ノ受場トナリタルニヨリ當村ハ年々沿

海村々ハ若干ノ借用料束須磨村ニ金ニ拾五圓西須磨

六五系

村ニ金三圓五拾錢東尻池村ニ金三圓五拾錢吉田新田  
 村ニ金五圓ヲ送りテ入會漁業ヲナセリ今十二年七月  
 ヨリ借區ノ期滿ナタルモ沿海漁村ト紛議アリ遂ニ分  
 一ト稱シ該村へ捕獲ノ十分一或ハ十分一半ヲ出シ漁  
 業ヲナセシカ今十八年新税法發布アリシ以來ハ全ク  
 従前ノ入會ニ復セリ

東須磨村

地引網漁場ハ外濱ヨリ字堂田尻ニ至ル里程拾町拾三  
 間ハ當村共有ノ漁場ニシテ往古ハ西須磨駒ヶ林村等  
 ノ入會稼場ナリシ明治九年一村限り海面ヲ借區セシ  
 モ今十二年ヨリ復舊セリ

西須磨村

地引網漁場ハ撰播境字堺川ヨリ東須磨村境迄凡三拾

町ノ間ハ往古ヨリ當村共有ノ漁場タリ  
 章魚操漁場中字佐吉漁場ハ天明七八年ノ頃佐吉ナル  
 者之ヲ發見セシニヨリ今人ノ專漁場ナリシカ今人死  
 没後ハ當村入會トナレリ  
 章魚漁場字八郎左衛門ハ天明九年ノ頃林八郎左衛門  
 ナルモノ發見セシヲ以テ今人ノ專漁場ナリシカ現今  
 ニテハ入會ナリ

本村一般ノ漁場ハ駒ヶ林東須磨兵庫トヲ合セ四ヶ村  
 ノ入會トス右廣サハ地方ニ於テ東ハ駒ヶ林村境界西  
 ハ西須磨村堺川迄トシ沖合ニ於テ西堺川ヨリ方位凡  
 未中ノ間即チ字立合ノ磯ヲ經テ字道合ノ磯ニ見通シ  
 此里程凡三里半字合磯ヨリ方位凡己午ノ間へ向テ字  
 沖ノ瀬ニ達ス此里程凡一里東ハ地方ヨリ里程四里半

ナリ  
 舊来ヨリ村方ト浦方ト區別アリ村方ノ者濱邊ニ出テ  
 漁業スルヲ得ス浦方ノモノハ海面ヲ専用シ自由ニ業  
 ヲ營ミ得ルノ權アリ浦方ニ此權アルハ水主米ヲ納ム  
 ルニ因ルモノニシテ今尚此慣行ヲ重ニス

第二節 仲間加入ノ仕来

駒ヶ林村

村内ノ者新ニ漁業ヲ營マントスル氏ハ何時ニテモ之  
 レヲ許ス加入者ハ其年ノ日待ニ陰曆正月、五月、九月ノ  
 集會徹夜ス會費一切ヲ支出スルヲ例トス

東須磨村

村内ノ者新ニ漁業ヲ營マントスル氏ハ先ツ漁者ノ業  
 諾ヲ受ケ金子若干金額制ヲ仲間料トシテ出不例ナリ

西須磨村

村内ノ者新ニ漁業ヲ營マントスル氏ハ先ツ漁者ノ承  
 諾ヲ受ケサル可ラス右加入ノ際新漁者ハ仲間入ト稱  
 シ漁者一統ニ對シ金二圓ヲ出シ尚各自ニ清酒二合宛  
 ヲ贈ルノ例ナリシカ現今ハ出金ノミトナレリ

茅三節 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

西須磨村

淡路備前備中ノ漁者當漁場へ入漁セントスル氏ハ一  
 日風波ノ日八錢宛ノ沖立ヲ徴收シテ之レヲ許ス然レ  
 氏本村ノ者出漁中ナレハ其漁具ヲ納メタル氏ニアラ  
 サレハ漁スルトテ許サス又其許セシ者ヨリ捕獲物ノ  
 半分或ハ十分一又備前備中ノ者ヨリハ十分二ヲ徴収  
 ス而シテ該金ハ當浦方ノ臨時費ニ補充ス



第四節 販賣ノ仕方

駒ヶ林村

捕獲ノ魚介ハ本村市場(文久二年設置)ニ運ヒ即金ヲ以テ取引ス但問屋ノ手数料ハ賣價ノ六分トス  
 出買ト稱スルモノアリ沖合或ハ漁場所在ノ漁者或ハ問屋ニ付キ捕魚ヲ買取ルモトス其取引ハ概子即金ナリ然レモ本村ハ市場アルヲ以テ概子該商人ニ販賣セズ

東須磨村

捕魚ハ駒ヶ林ノ市場距離拾町へ運輸シ即金ヲ以テ取引ス問屋口錢ハ賣價ノ八分トス

西須磨村

捕魚ハ駒ヶ林或ハ兵庫ノ市場へ兵庫へ二里駒ヶ林へ一里運輸シ

即金ニテ取引ス但問屋口錢ハ賣價ノ一割トス但本村ハ概子出買舟ニ即金ヲ以テ賣却スル故市場へ運送スルモノハ僅ニ收獲ノ三分許ニ過キス

第五節 漁村維持並ニ救恤

西須磨村

毎月二十八日陰曆ハ殺生日ト唱へ漁者一般ニ休業スルノ慣例ナリシカ明治十七年七月以降近年ノ不漁ニヨリ救荒ノ目的ナリ其休業ヲ廢シテ各出漁シ而シテ其收益金ノ内當日ノ飯料ヲ引去リ残金ハ悉皆蓄積スルトナシニケ年間之レヲ繼續シ其金額三拾有餘圓ニ上レリ然ルニ兼農者ハ其廢休ヲ以テ農作ヲ妨クルトナシ苦情ヲ唱へ遂ニ今十九年ニ至リ舊ニ復セリ然シテ該金ハ極貧ノ漁者ヲ救助シ又ハ浦方入費ニ支消シ為ノニ既ニ過半



茅三項 雜事

駒ヶ林村

ヲ費消セルカ爾後別ニ貯蓄スルナシ

祝ヒ 維新前ハ出漁ノ儀ニ際シ其手配リ全ク終ルヲ

網卸シト稱シ家族並ニ雇夫相集リ祝宴ヲ張ルナリ

リタリ総テ大漁ノ儀ハ之ヲ祝シテ雇夫手間取等ニ

至ル迄揃ヒノ紅漆手拭ヲ給與シ又ハ其漁獲物ヲ親

戚近隣ノ者等へ分配スルナリ蓋シ分配ハ不漁又

ハ漁負ケシタルトキ水入ト稱シ酒等ノ贈與ヲ受ケ

タル報酬ナリト云フ

雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ朝六時晝十二時及

ヒ夕五時ノ三度トス漁事ノ都合ニヨリ臨時握リ飯

ヲ與フルナリ右食事ノ節ハ船頭以下順次ニ坐列

シテ喫食セシム飯ノ添ニハ菜漬或ハ梅干トス又調

理ニハ一切醬油ヲ用ユルナク塩或ハ酢ヲ以テス

又茶ハ一切給セス湯或ハ水ヲ以テス

祭祀禁忌 漁夫信仰ノ神ハ其數多シト雖氏就中最モ

歸依スルモノハ戎神トス故ニ漁村至ル所此社アラ

サハナク毎年春秋ノ二季ニハ各自大漁ヲ祈ル為

メ浦祭ト稱シ神前ニ御酒ヲ供ヘ一同其所ニ集リ芝

居其他ノ興業等ヲ奉納シ又互ニ飲酒シテ漁期中ノ

勞ヲ慰メ且漁事ヲ談ス○漁戸ニ産婦アル儀ハ産忌

ト稱シテ三日間漁業ニ出テサルヲ例トス蓋シ海神

東須磨村

祝ヒ 出漁セントスル儀其手配リ全ク終ハルヲ網卸

西須磨村

シト稱へ家族並ニ雇夫共ヲ集メ祝宴ヲ張ル○雇夫ノ人数全ク揃フキハ帳結ヒト稱へ又業終リ雇夫ヲ解散スル場合ニハ之ヲ網揚ケト唱へ雇夫手間取等ニマテアリ○大漁ノキハ眷越ト唱へ雇夫手間取等ニマテ揃ヒノ紅染手拭ヲ給與シ又ハ漁獲物ヲ近親隣家へ分量ハ其日ニヨ分配シ又ハ宴會ヲ催ストアリ雇夫給食 駒ヶ林村ニ全シ

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スルモノハ氏神ナリ而シテ珠ニ信スルモノハ戎神ニシテ時々該社ニ詣リ神酒ヲ供シテ大漁ヲ祈ル○産穢ノ丁ハ駒ヶ林村ニ同シ

祝ヒ 東須磨村ニ同シ

雇夫給食 駒ヶ林村ニ同シ

祭祀禁忌

漁夫ノ信仰スル神ハ數多アリト雖モ就中尤モ歸依スルモノハ戎神ニシテ時々參詣シ或ハ一同集會シテ浦祭ヲナシ大漁ヲ祈ル○漁戸中産婦アルキハ産忌ト稱シ一週間休漁スルヲ例トス蓋シ海神ハ産穢ヲ忌ムト信スルニ由ルナリ

茅三款 犯則違例ノ處分

西須磨村

維新前ニハ舊來ノ慣行ヲ破リ漁者ヲ害スルモノアレ  
 ハ浦方へ呼ヒ出シ船床ヲ取リ上ケ其所分全ク了ル迄  
 ハ返付セサリシ一アリ

第二章 漁撈

第一款 種類

第一項 品名

鰯イサナ 海鰻ウナギ 鰻ウナギ 鱈タラ 鱈タラ 鱈タラ

玉筋魚イサナ 鰻ウナギ 鰻ウナギ 鰻ウナギ 鰻ウナギ

烏賊イカ 蟹カニ 車蝦クルマエビ 鰻ウナギ 鰻ウナギ

鰻ウナギ 刀魚タチウオ 鰻ウナギ 青シアヲシ

鱧ハモ 鱧魚ハモ 鱧魚ハモ 赤シアカシ

鰻ウナギ 鰻ウナギ 小蝦コエビ 鰻ウナギ

第二項 大小輕重

鰯

春字化シ六十六夜ヨリ立タテ春ハル項イテニハ長ケ九ソ三歩トナル之  
ヲヲ同ド口クメメシシト云フ五月ニハ七八歩之レヲ予リメシト  
云ク七シ月ツキニハ九一寸四歩平子ト云フ七シ月ツキニハ二寸五

六 頁 系

筑前

六歩シニコ鰯ト云フ最モ多ク群来スルハ十月ニシテ  
 佳味ナルハ秋季トス此魚ニ二種アリ以上掲ケシ分ハ  
 大鰯ニシテ今一種ノモノハ小鰯ナリ其孚化ハ今時ナ  
 ルモ四月頃三步五月頃六歩七月頃七八歩トナル此  
 ニ至リテ始メテ其區分ヲ知ル而シテ成長ノ極度ハ九  
 一寸ニ三步乃至二寸ナリ此時ハ九月ニシテ即チ最モ  
 佳味ニ且多獲ノ季節ナリ  
西須磨村調  
 査ニヨル

玉筋魚

孚化ノ後九一寸四五歩ニ成長セシ時ヲ最モ多獲ノ季  
 トス佳味ナルハ八十八夜ヨリ前後ナリ二年目ニ八九  
 三寸トナル之ヲ古セト云フ而シテ大抵二年ニシテ死  
 亡スルモノトス此魚ハ魚類中最モ産額ノ多キモノニ  
 シテ他ニ比類ナシト云フ  
西須磨村  
 調査ニヨル

烏賊

モシゴ烏賊ハ七月頃ハ二寸十月頃ハ四五寸此量六ト  
 ナル小烏賊ハ七月ニ一寸二三分十月頃二寸二三分翌  
 年ハ四五寸目方七トナリ之ヨリ後ハ又成長セス最モ  
 多キハ十月頃ニシテ佳味ナルハ秋季トス  
西須磨村調  
 査ニヨル

鮫

孚化後六七十日ヲ經テ七寸此量五トナリ其年中ニハ  
 大サ一尺五寸ニ至ル之ヲハジロト云フ三年目ニ三尺  
 此量ニトナル之ヲ鰯ト云フ佳味ノ候ハ冬季ナリ  
林村  
實目ニ  
 調査ニヨル

鱧

七月始メテ来ル其長九一尺二三寸位アリ爾後成長シ  
 テ一尺五六寸此量二トナリ翌年ニ八二尺目方五三年

系

目二八二尺七八寸目方百六四年目二八三尺二三寸方目  
 二百四二至ル最モ多キ八二尺頃ノモノニシテ七八月  
 五十目  
 頃ヲ佳味ノ時トス西須磨村調

鰯

孚化後百五十日ヲ經テ四寸此量五トナリ三年目二八  
 一尺二三寸此量百四年目二八二尺餘此量二至ル就  
 中最モ多キ八三年目ノ時トス駒ヶ林村調

海鰈

孚化ノ年二八三四寸此量二成長シ二年目二八七八  
 寸此量四三年目二八一尺餘此量百四年目二八一尺二三  
 寸此量百五年目二八一尺七八寸乃至二尺此量三百五  
 目六十至ル最モ多キ八一尺二三寸ノ時ニシテ二三月  
 ノ頃ヲ佳味ノ時トス西須磨村調

鰈

冬季ニ孚化シ翌年中ニ五寸此量二ヨリ二尺餘ニ及フ  
 然レ此當海ニ八七八寸ノモノヲ多シトス夏土用ハ佳  
 味ノ時ナリ西須磨村調

蟹

三四月頃大サ小血位ニシテ其歳中ニ大血位トナリ二  
 年目ニ直径足ノ長尺餘ニ及フ多獲ナルハ五月頃ナル  
 モ佳味ナルハ秋季トス西須磨村調

刀魚

三月頃来游ス其長六寸許リ爾来成長シテ一尺二三寸  
 此量二トナリ二年目二八二尺餘此量四三年目二八二  
 尺七八寸此量百至ル普通多キハ二尺ノ時ニシテ佳味  
 ナルハ十月ナリ西須磨村調

章魚

秋彼岸ニ孚化シ翌年二三月頃二三十日七月頃百四五  
十日爾後成長シテ四五年目ニハ一貫目トナル佳味十  
ルハ七月ニシテ最モ多キハ二百目位ノモノナリト云  
フ  
西須磨村調  
査ニヨル

鯛

孚化後一年ヲ経テ六寸此量ニトナル之ヲカスゴト云  
ニ三年目ニ至リ普通ノ鯛此量百トナル最モ多キハ六  
寸位ノモノニシテ佳味ナルハ冬期トス駒ニヨル村調 ○  
孚化後少時ニシテ一寸ニ至ル之ヲ鯛ト云フ二年ニ  
至リ九六七寸ニ及フ之ヲ小鯛此量六ト云フ三年目ニ  
ハ一尺此量ニ四五年目ニハ二尺餘此量九一貫ニ及フ  
普通多キハ一尺位ノモノニシテ最モ佳味ナルハ秋季  
十リ西須磨村調  
査ニヨル

鱸

孚化ノ年ニハ二寸二年ニハ三寸トナル普通多キ時及  
佳味ナル時ハ十一月長三寸ノ時トス西須磨村調  
査ニヨル

鰺

孚化ノ年ニハ二寸二年目ニ六七寸此量三 三年ニ一尺  
餘此量四 四年目ニ一尺四五寸此量二 至ル普通多キハ  
一尺餘ノ時ニシテ十一月頃ヲ佳味トス西須磨村調  
査ニヨル

車蝦

孚化ノ年ニハ五寸許リトナリ二年目ニ七八寸トナル  
最モ多キハ五六寸ノ時ニシテ秋ヲ以テ佳味ノ季トス

鰯

西須磨村調  
査ニヨル



鱸

數ノ部ニ詳記ス

休生ニシテ出産ノ時三寸許リノ大廿ナリ其年内ニハ  
 長サ一尺四五寸百目方二年目ニ八一尺七八寸此量二百  
 三年目ニハ二尺五六寸此目方五六百目トナル甬来成  
 長ノ度定マラズト蚕氏當海ニ来ルモノハ星ノソ鱸ト  
 云ヒ成長遅ク巨大トナラサル魚ナリ又別ニ長廿二三  
 間ニシテ其量凡百四五十貫ニ及フ一種ノモノアリ西須  
磨村調査

小蝦

夏孳化シ秋ニ至リ凡一寸二分ニ長シ其一年ニ一寸四  
 五分トナリ二年目ニ二寸トナル佳味ナル時及多獲ノ  
 季ハ共二十一月ナリ西須磨村調査

鰆

孳化後百四五十日ヲ経テ二寸此量三十目トナル之ヲツナ  
 シト云ヒ其年内ニ五寸此量五十目トナル之ヲゴノシロト  
 云フ佳味ナルハ十一月ノ頃トス駒ヶ林村調査

鱒

休生ニシテ五月頃ハ四寸此量四十目十月頃ハ一尺此量二百目  
 トナル此魚ハ大井限リナシ通例多キモノハ一尺位ノ  
 モノトス佳味ノ季ハ種類ニヨリ異リト蚕氏大概七八  
 月頃ニアリ西須磨村調査

鯧

八月頃他ヨリ来ル其長廿六寸位此量十二目ニシテ其年中  
 二一尺餘此量三十目トナリ二年目ニ一尺二三寸此量七十目  
 年目ニ一尺七八寸此量百目四年目ニ二尺餘此量三十目トナ

ル而シテ尤大ナルモノハ閉ケタル傘ノ大サニ及フア  
リ最モ多キハ九寸乃至尺餘ノモノニシテ佳味ナルハ  
八月十リ西須磨村調

青シタ赤シタ

孚化ノ年ニハ二三寸二年目ニハ六七寸此量五三年目  
ハ一尺餘此量八ニ至ル最モ多キハ七八寸ノ時ニシテ

冬至ノ頃ヲ美味トス西須磨村調

アイゴ

孚化後七月頃ハ一寸九月頃ハ二寸翌年ハ七八寸此量  
目トナル普通多キハ六月頃ニシテ七八寸ノ時ナリ又  
佳味ナルハ秋ナリ西須磨村調

鯨

孚化ノ年ニハ一尺二三寸此量百トナル之ヲサゴシト

云フ二年目ニ二尺此量百五之ヲセナギト云ヒ三年目ニ  
ハ二尺五六寸此量百之ヲサヲラト唱ヘ普通多キモ

ノナリ十一月頃ヲ佳味ナル時トスレバ八十八夜前後即  
チ子持ノ時モ亦佳味ナリ西須磨村調

サカタ

二寸計リニシテ生産シ其年中ニ七八寸トナリ二年目  
ニ一尺四五寸此量七三年目ニ二尺二三寸此量百ト

セイゴ

孚化後二百五六十日ニシテ七八寸此量三トナリ二年  
目ニハ一尺四五寸此量百三年目ニハ二尺此量五トナ  
ル之ヲスバキト云フ此地多キモノハセイゴトス又佳  
味ノ季ハ夏土用ナリ西須磨村調

捕魚採藻ノ期節尤ノ如シ

茅二款

漁期

茅一項 期節

品名		期節		駒ヶ林村		東須磨村		西須磨村	
鰯	鰯	自十一月至十二月	十二月	自五月至六月	五月	自五月至八月	五月	自五月至八月	五月
烏賊	烏賊	自五月至六月	五月	自五月至六月	五月	自五月至八月	五月	自五月至八月	五月
玉筋魚	玉筋魚	自三月至六月	三月	自三月至六月	三月	自五月至八月	五月	自五月至八月	五月
鰺	鰺	自十一月至十二月	十二月	自五月至六月	五月	自五月至八月	五月	自五月至八月	五月
海鰻	海鰻	自七月至八月	七月	自五月至六月	五月	自五月至八月	五月	自五月至八月	五月
鰈	鰈	自十一月至十二月	十二月	自五月至六月	五月	自五月至八月	五月	自五月至八月	五月

兵庫縣

系

鱸	小鱸	鱒殘魚	サカタ	鱒	鯖	アイゴ	青シタ	赤シタ	鯧	鱒	蝦	鰯	鰮	鯽	鰻	鰺	鯛	鱈	刀魚	蟹
					六				自十一月		周	自十一月		自十一月	自十一月	自十一月	自十一月	自十一月	周	
					月				日出日没時		十一月	十一月		十月	十月	六月			自十一月	自十一月
														自十一月						
至自十一月	至自十一月	至自十一月	周	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	周	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月	至自十一月
十一月	十一月	十一月	七月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月

第二項 氣象

鱒ハ例年漁期十月ニシテ其頃西風アルハ魚其風ニ誘  
 ハレ漸々群集シテ岸ニ近寄ルモノ十リヨルケ林村調査ニ  
 弱、鱒ハ八九月ノ交數日間北風吹クハ海水濁リ為

兵庫縣

ノニ多ク群集シ捕獲ニ便ナリ○玉筋魚ハ四五月頃天氣  
 晴朗ニシテ潮水澄ミタル時ヲ佳トス○南風方言ヤノ時  
 ハ海中數萬ノ魚群アルモ忽チ逃走シテ意外ニ收利少ナ  
 シ○總テ潮水濁リ風向西ヨリ北ニ轉セシキヲ良トス南  
 風ノ節ハ魚之ニ向ヒテ沖へ出ツ○好天氣數日ニ及フモ  
 ナギト唱へ水上恰モ油ヲ流シタル如キ時ハ雨近シ○淡  
 路地方ニ黒雲ヲ催シ北明石ノ方ニ急行シ或ハ摩耶山上  
 ニ黒雲ノ絶へサル片ハ必ス南風起ル○初ノ東風ニシテ  
 後巽ニ變スルモノハ「イナサ」ト云ヒ舟ヲ岩上ニ吹キ上ク  
 ル等ノ大害ヲナス○土用波ト稱シテ夏土用中凡三日間  
 程ハ波立荒ク甚シキ時ハ漁船ヲ浮アルニ由ナキニ至ル  
 下アリ是ハ氣候ノ順當ナル逃ニシテ斯クノ如キ年ハ他  
 ニ暴風ノ患ナシ○鰯魚ハ五月ノ頃東風アリテ雨降ラシ

トスル前ヲ良期トス此風アル片ハ魚ノ集リ来ル下夥シ  
 ク殊ニ岸ニ近寄ルナリ○玉筋魚ノ漁期ハ三月ノ頃南風  
 ノ後ヲ良トス

第三項

群来ノ前兆

鰯魚及ヒ玉筋魚ノ群来ハ波上ニ鷗ノ飛散スルヲ証メテ  
 之ヲ知ルヘシ駒ヶ林、西須磨村調査ニヨル

第四項

去来ノ期節及ヒ方向

總テノ魚類ハ毎年八十八夜頃漸々下ヨリ昇リ来リ十一  
 月ヲ以テ去ル西須磨村調査ニヨル○去来ノ方向ハ鰯ハ多ク南  
 行シテ遠州洋ニ至リ鯛、鰯其他ノ魚類ハ西海或ハ南海ニ  
 出ツ而レヒ南海ニ行クモノヲ最モ多シトナス

第三款 漁場

駒ヶ林村

區域

鯽漁場ハ駒ヶ林村沖合即チ和田岬ヲ距ル西南

凡一里ノ所ナリ ○鯛漁場ハ西須磨村沖合即チ本村

ノ南一里半ノ所ナリ ○鰺鰯其他ノ漁場ハ全ク西須

磨村ニ全シ ○鰯玉筋魚漁場ハ當村ノ沿岸ナリ

潮流 常ニ東西ニ又陸ヲ距ル凡四里ノ所ハ南北ニ往

来ス而シテ春ハ緩ナレ氏冬ハ急ナリ 就中陰毎月七

日迄ハ最モ急ナリ

水底ノ概状 海岸ニ接近シ陸ヲ距ル凡一丁許瀨ト呼

フ所ノ内 潮ノ干満ニヨリ最モ浅キ所ハ一尋内外深

キ所ハ三尋許アリ其水底ハ渾テ砂ニシテ之ヲ臨ノ

ハ白色ナリ其幅凡一丁餘長凡一里餘ハカ貝一名ア

系

東須磨村

ヲ生産ス其次ヲ磯ト云フ陸一里距ル深十三尋鯛、鮪等  
ノ群来スル所ナリ

區域 玉筋魚、鯛、鮪、小鱸等ノ漁場ハ本村沿岸ヨリ陸ヲ

距ル九一丁ノ内ニアリ

潮流 駒ヶ林村ニ全シ

水底ノ概状 海岸ニ接スル所ハ深サ六尋アリ此処ヲ

巢ト云ヒ水底ハ砂ナリ四五月頃玉筋魚群来ス其次

ヲ字「アジ」ト云フ深サ七尋水底ニ藻ヲ生スルヲ以

テ此名アリ八月ヨリ十二月迄鮫、鯛、小鱸等ノ魚群

来ス其次ヲ「ア」ト云フ深サ八尋水底ハ泥ナリ五

六月「チ」リメシ魚群生ス

西須磨村

區域 鯛、鮪、鮫、魚、漁場ハ本村沿岸ナリ○玉筋魚漁場ハ

一ノ谷ヨリ沖合未申ノ方一里内外ニシテ瀬ノアル

所ナリ○鯛、章魚漁場ハ一ノ谷海岸ヲ距ル一丁ノ所

ヨリ未申ノ方沖合三里幅二里ノ間ナリ○鱈、鮪、鰻、烏

賊漁場ハ陸ヲ距ル五丁ノ所ヨリ辰、巳、午ノ方一里ノ

沖合トス但鰻魚ハ凡三十年前ハ午、未ノ方二里半ノ

所ナリシモ爾来漸ク衰シテ目下ノ所ニ遷リタリ○

鱈、鱈、サカタ、漁場ハ一ノ谷海岸ヨリ午、未申ノ方陸ヲ

距ル十町横幅十四五丁ノ所ニアリ○鰈、ア、ゴ、鱸、鰯、殘

魚漁場ハ陸ヲ距ル一丁乃至三丁「アジ」藻ノ生セシ所

ナリ○赤シタ、刀魚漁場ハ巳、午ノ方陸ヲ距ル一里乃

至一里半ノ間ニアリ○青シタ、蟹漁場ハ海岸ヲ距ル

半丁餘内外ノ所ニアリ○蝦、鰯、鱈漁場ハ海岸ヲ距ル

系



兵庫縣

八丁乃至十五丁ノ沖ニアリ○鯉漁場ハ一ノ谷海岸ヨリ午、未ノ方ニシテ陸ヲ距ルニ里ヨリ三里半迄ノ所ニアリ○海鯽漁場ハ海岸ヲ距ル九三丁乃至一里半間ノ磯アル所ニアリ

潮流 常ニ東西ニ往来シ早春ハ緩、晩春ハ少シク急、夏ハ急、秋ハ少シク緩ニシテ冬ハ極メテ緩ナリ

水底ノ概状 海岸ニ接近セシ所ハ深サ三尋アリ五月青シタ、蟹群集ス次ハ深サ八尋ニシテ一ノ谷ト云ヒ又六尋ノ所ヲ高谷天神ト云フ其水底ハ一体ニ藻アリ六月ニアリゴ、七月ニ鱸、九月ニ鰯、十一月ニ鯽、十二月九月ニハ鰈、鰨残魚群来ス次ヲ墓松出シト云

フ陸ハヲ距深サ十三尋水底泥ニシテ九月、鰯、鰨、蝦、鰧群来ス次ヲ字「小」ガカリト云フ深サ十八尋水底泥ニシテ九、十月、鰯、鰨、鰧、烏賊群来ス次ヲ光山ト云フ四十深サ二十五尋水底泥ニシテ六、七月ノ頃赤シタ、刀魚群来ス次ヲ字「白」出シト云フ陸ヲ距深サ二十ハ尋ニシテ水底ハ小石ニ泥ヲ交エ六、七、八月ニ章魚九、十月ニ鰯群来ス次ヲ字「八」郎丸衛門ト云フ陸ヲ距深サ三十五尋ニシテ水底ハ小石ナリ六、七、八月章魚群来ス次ハ字「猩」々筋ヨリ東、半里許ノ所ヲ字「摺鉢」フカリト云フ陸ヲ距深サ七十尋水底ハ泥ニ小石ヲ交エ六、七、九月頃、鰯群来ス次ヲ字「藏」山出ト云フ陸ヲ距半深サ四十尋水底「カ」石ニシテ六、七、九月、鰯群来ス次ヲ字「沖」ノ瀬ト云フ陸ヲ距深サ三十尋ニシテ水底ハ瀬砂ナリ四、五月、玉筋魚群来ス

兵庫縣

茅四款 入會漁船ノ數

駒ヶ林村

一 鯛其他雜魚漁場

漁船總數

八十一艘  
但一艘二、明治十九年  
三月調

内

備前地方ノ漁船

十八艘

兵庫地方ノ漁船

十八艘

西宮地方ノ漁船

五艘

本村漁船

四十艘

當漁場ハ明治四五年ノ頃迄ハ僅ニ四五十艘ニ過キ

サリシカ公十年頃ヨリ年々増加シ遂ニ本文ノ數ト

ナレリ

西須磨村

一 鱒、鮒、鰓、烏賊 漁場

漁船總數 百艘

明治十九年六月調

内

備前ノ漁船

二十艘

明石ノ漁船

三十艘

本村ノ漁船

五十艘

當漁場ハ明治八九年ノ頃ハ僅カニ五十艘ナリシカ  
全十四五年頃ヨリ増加シ遂ニ本文ノ數トナレリ

一 玉筋魚 漁場

漁船總數

百艘但一艘

明治十九年六月調

内

淡路ノ漁船

五十二艘

本村ノ漁船

四十八艘

當漁場ハ弘化二年ノ頃三百二十艘ノ多キニ及ヒシ  
カ明治八九年ノ頃ヨリ減シテ本文ノ數トナレリ

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具現數 尤ノ如シ

真章魚壺網 數	鯛子網 數	刀魚鱗釣 數	鯛鱒子方七網 數	鯛鱒子網 數	工ソ 鯛手線網 全	玉筋魚曲張網 全	鯛鱒魚網 全	鯛瓢箪網 數	漁具名
		三	一		二三			一〇	駒ヶ林村
							一	八	東須磨村
一五〇	二三	八〇			八〇	一四	一	一六	西須磨村
一五〇	二三	八三	一	八〇	二三	一四	二	三四	合計

系

紐魚之七網數

漁船現數 尤ノ如シ

茅二項

漁船

二間漁船	一〇	東須磨村	三	西須磨村	四五	合計	五八
一間漁船	四五	合	六	計	五〇		一〇一

第六款 漁法

鰯漁

瓢箪網

該網

該網一疊ヲ網船一艘十五人ニ登載シ又網ハ網船一艘

來四人ニ載セ手船二艘各三人都合四艘ヲ備ヘ時機ヲ俟

ツ該網ヲ瓢箪ト云フハ大ノ網船小ノ網船ヲ以テ漁

スルニヨレリ備テ該魚ノ群集シ來ル片ハ潮色黒ク

或ハ時トシテ赤色ヲ呈ス即チ網ヲ投シ一艘ノ網船

ハ先ツ陸ニ向ヒ漕キ歸ル一艘ノ網船ハ輪形ニ網ヲ

投シテ階キ歸ル手船二艘ハ網ノ後ニ回リ竿ニテ水

ヲ叩キ魚ヲ威シテ網中ニ驅ル其網ヲ繰ル既ニ七八

歩ニ及ヘハ「イワ」ノ方ヲモ繰リ揚ケ恰モ抄ヒタル如

クシテ魚ヲ收ム又小瓢箪網アリ中鰯ト口ノリ一名チ

六頁 鰯

コヲ漁スルニ用フ網船ハ十人網船ハ四五人衆組  
以テ漁ス其順序前ニ全シ西須磨村調

魚網 大鰯 鮫 鯛 鯽 等ヲ漁スルニ用フ漁期九月十月ニシ

テ該網ヲ網船二艘各十五人衆組ニ分載シ外魚見船一艘  
兼ト都合三艘ヲ用意シテ漕出ツ魚見船ハ漁群ヲ視  
察シ二艘ノ網船ヲ指揮シ潮流ノ緩急ト魚ノ方向ヲ  
考ヘテ其前途ニ網ヲ卸サシム網船ハ即チ左右ニ分  
レテ孤線ニ網ヲ布キナカラ陸ニ向テ歸ル此ノ布キ  
方ヲ月割ト云フ魚見船ハ網ノ後ニ廻リ騷々置々ト  
シテ魚ヲ威シテ網中ニ驅リ入ル其既ニ網ノ口ニ近  
クヲ見レハ網船ハ魚ヲ圍ミテ左右相合シ尚潜伏シ  
又ハ網口ヨリ脱去スルヲ慮リ狩竿ヲ海中ニ入レテ  
攪回シ或ハ棒ヲ水中ニ投シテ之ヲ防キ以テ船中ニ

構ヘタル轆轤ニテ繰リ上ケ遂ニ「イ」ヲモ引キ上ケ  
恰モ抄ヒタル如クニシテ之ヲ捕獲ス西須磨村調

玉筋魚漁

四艘張網 本漁ハ春期晴天魚風ノ日ニアリテ小潮ノ

時ハ朝ヨリ夕ニ至リ大潮ノ時ハ朝ヨリ日中ニ至ル  
而シテ通常ハ小潮ノ時ヲ良トス漁場ハ筋山地山筋  
地山トハ甲乙ヲ定メタル位置ヲ定ムル標目ノ各ニ  
シテ先ツ漁場ヲ定メタル位置ヲ定ムル標目ノ各ニ  
山ヲ北ト云フ右ノ内適宜ニ山ヲ撰ム此ノ筋山ト  
キ次ニ北ト云フ右ノ内適宜ニ山ヲ撰ム此ノ筋山ト  
云ヒ該筋山ニ其位置ヲ定メ引キ該筋山ト故ニ若シ  
合シタスル所ヲ其位置ヲ定メ引キ該筋山ト故ニ若シ  
漁場ヲ変スル所ヲ其位置ヲ定メ引キ該筋山ト故ニ若シ  
目ハ随テ改ムル所ヲ其位置ヲ定メ引キ該筋山ト故ニ若シ  
出漁スルモノナリ其出漁ノ時ハ真網船逆網船頭船  
下船ノ四艘ヲ以テ該網ヲ使用スルモノニシテ網船  
ハ潮流ノ上ニ於テ網ノ一方ヲ下船ニ其他ノ一方ヲ

頭船ニ渡シ以テ袋網ヲ海中へ卸シ續ニテ袋網ヲ重  
 不掛ケテ卸シ而シテ真網逆網共ニ船ヲ横ニ漕キ其  
 網ヲ擴ク下船ハ「ヤ」繩手網ニ付ケタルヲ堅ク持テ網ノ  
 漸ク下タルヲ視テ之ヲ延ス船長ハ網ノ全ク擴カリ  
 終リタルヲ考ヘ其レヲシテ海底ニ沈着セシムル為  
 ノ一統小魁セシム暫ラクシテ下船ハ「ヤ」繩ヲ少シク  
 延ハシテ潮下ヲ少シク漕ク斯クスル「尚」一回ナリ  
 而シテ網ノ魚群ノ場所ニ至リタルヲ察シ全ク「ヤ」繩  
 ヲ延シテ船ヲ横ニ向ハシ遂ニ合圖ヲ以テ四艘一齊  
 ニ「ヤ」繩ヲ繰リ上ケ而シテ漸々相集合シテ恰モ四角  
 形ヲ為ス斯クテ網ヲ上ケ了レハ袋網云々ヲ繰リ  
 上ク其網ハ網船ニ收メ捕漁セシ玉筋魚ハ逆網船ニ  
 取り入ル爰ニ於テ各船相分レ亦前ノ順序ニ隨テ使

用スル「尚」一回幾回ニ及ブ西須磨村調

鮫漁

魚網 鮫魚網ニ全シ

鯉漁

手繰網 津名郡ニ全シ

拵繩 明石郡ニ全シ

鰯漁

マカセ網 神戸區ニ全シ

刀魚漁

釣 明石郡ニ全シ

鯛漁

魚網 鯛魚網ニ全シ

手繰網 鯉手繰網ニテ鯉ト同時ニ漁スルモノトス



網 晴天ニシテ風ナキ日朝ト夕トヲ以テ好漁時  
 トス敢テ潮流ノ大小ニ拘ハラサルナリ其朝ト夕ト  
 ヲ漁時トスルハ海水常ニ混濁シテ漁シ易ケレハナ  
 リ又最良時ハ秋ハ漁期中其月ノ十九、二十、二十一日  
 頃即チ大潮ノ小潮ニ移ラントスル時延潮トニシテ  
 潮水濁レルニヨル又復ハ其月ノ六、七、八、九日頃即チ  
 小潮ノ時ニシテ水清ミタルモ土用ノクラ鯛トテ  
 視力薄弱ナルニヨル者テ此時ニ至リ漁船ニ三人衆  
 組ミ漕出シ先ツ筋山ト地山トヲ立テ漁場ノ位置ヲ  
 定メ筋山地山ノ部ニ詳記セリ四潮流ノ緩急ヲ考ヘ浮  
 樽ヲ投シ其流レヨリ九二分許リ斜メニ船ヲ漕キ圓  
 形ニ該網ヲ布キ廻リテ該樽ノ處ニ歸リ樽ヲ揚ケ網  
 ヲ取り又一端ノ網ハ他ノ一漁夫ニ於テ之ヲ取り其

儘ニ暫ラク息ヲ休メテ該網ノ海底ニ落着スルヲ待  
 ツ網既ニ落着セシヲ認ムレハ少シク上流ニ船ヲ進  
 メテ網網ヲ緊張セシム緊張其度ニ達スレハ漁夫ハ  
 ハツタ網ノ網張リタリト云フ合圖ヲナシ直チニ船  
 ヲ横ニ向ケ錨ヲ卸シテ船ヲ止メ置キ之ヨリ徐々網  
 ヲ曳キ始ム時ニ一人ノ漁夫ハ木槌ヲ以テ叩キ板ヲ  
 叩キ魚ヲ威シ以テ網中ニ驅リ入ラシム但シ初ノ網  
 ヲ投スルニハ魚ノ居處ヨリ少シ上流ニ在リ潮ニ隨  
 ヒ流レ恰モ其居處ノ外邊ヲ圍繞セシムル如クニ十  
 ストナリ此作用タル最モ漁夫ノ巧拙ニヨリ捕獲隨  
 テ多少アル所ナリ注意ノ要點トス斯クテ網ヲ曳ク  
 ニ其兩端各四ヶ所ニ印ヲ付シ一方ノミ偏曳スルト  
 ナカラシム最後ハ印ハ土切ト云フ網此ニ至リテ盡

系  
 長  
 系

ク即チ槌打ヲ止ム尋テ網ヲ繰リ上クルニ舳ニ居ル  
 漁夫ハ一方ノ「イ」ト「ア」バヲ一手ニ合セ取り艦ニ居  
 ル漁夫一人ハ一方ノ「ア」バ一人ハ其「イ」ヲ取り以テ  
 全網ヲ揚ケ即チ魚ヲ捕獲シ船腹ニ設ケタル生ケ巢  
 ニ放ケ養フ然ルニ捕獲セシ時魚腹頗ル膨脹セルモ  
 ノナリ竹製ノ小針ヲ肛門ニ入レ針頭ヲ揺シテ腹中  
 ノ空氣ヲ出サシムル如クナセハ即チ活シ暫クシテ  
 活潑常ノ如クナリテ巢中ヲ游泳ス若シ斯クノ如ク  
 為サルハ斃死スルモノトス  
西須磨村調

真章魚漁

壺繩 明石郡ニ全シ

鰯漁

魚網 鰯魚網ニ全シ

鯨漁

マカセ網 明石郡鯨網ニ全シ

鯨鰯漁

手繰網 鯨手繰網ニテ鯨ト同時ニ漁スルモノトス

鱈漁

釣 明石郡ニ全シ

雑魚漁

ウタセ網 飾束郡ニ全シ

第七款

有害漁法

鰓鯛等ヲ漁スルニ船舷ヲ叩キ魚ヲ威シテ網中ニ驅ルノ  
 法ハ漁獲多シト云々他ノ魚類ハ其音響ニヨリテ逃ケ去  
 リ再々来ルナキノ害アリ○ウタセ網ハ魚卵ヲ攪亂シ  
 其他魚族ノ生育ヲ妨クルノ害アリ然ルニ當時備前紀州  
 西ノ宮等ノ漁者夜中ニ来リテ之ヲ行ヒ為メニ妨害ヲナ  
 スト少ナカラス○夜中ノ漁業ハ潮光ヲ發スルニヨリ他  
 ノ魚族ヲ驅逐スルノ恐レアリテ有害ノ漁法ナリトス

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

水族ノ生産スル期節尤ノ如シ  
 駒ヶ林、西須磨  
 村調査ニヨル

品名	鰯	烏賊	玉筋魚	飯章魚	鰯	海鰡	鰹魚	蟹	鯛
卵ヲ孕ミタルモノヲ初メテ捕獲セシ月	三	四	十	二	春秋 九三 月月	四	四	八	四
其最後ニ捕獲セシ月	四	五	一	三	春秋 十五 月月	五	五	八月末	五月
卵ナキ魚ヲ初メテ捕獲セシ月	四月末	六月	二月			六	六	九月	六月

系

兵庫縣

鱸	鮪	サカタ	鱈
六	四	六	四
月	月	月	月
七	五	七	五
月	月	月	月
十		十	六
二		二	
月		月	月

赤シタ	アイゴ	青シタ	鱈	鯨	蝦	鯛	鯛	鱈	鰻	鱈	章魚	鯽
六	六	六	三	三	二	六	三	三	六	三	八	三
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
七	七	七	六	四		七	四	六	七	五	八	六
月	月	月	月	月		月	月	月	月	月	末	月
十	十	十	七	四	六	十	四	七	十		九	七
二	二	二		月	月	二	月	二	二			
月	月	月	月	末	月	月	末	月	月		月	月

系

庫

第二款 生産場

鯛ハ沖合ノ流緩ク泥或ハ塵埃ノ集マレル所ニ産卵ス又  
 藻ニ産卵スルモアリ此所ヲ苗場ト云フニ駒ヶ林村以下調査  
 シ○章魚、烏賊ハ石瓦ノ沈ミタルモノニ卵ヲ産付ス卵ノ  
 大サハ豆大ニシテ白色ナリ孚化ノ時ニ近ケハ膜内其形  
 ヲナシテ淡黒色ヲ現ス○鮪魚ハ當海ニ於テ孚化シ三四  
 寸ニナリタル外海ニ出ルト云フ○鯛ハ淡鹹水相交リ  
 且藻ノアル所ニ産卵ス而シテ孚化後ハ溝川等ノ流ニ昇  
 ル其状恰モ鯉ノ遡瀑ニ似タリ○鮪ハ沖合ノ潮流緩ナル  
 所ニ産卵ス孚化スレハ各所ニ去リ其生育ノ所一定セズ  
 ○玉筋魚ハ水底泥アル地ニ産付シ孚化後八十日目に至  
 レハ一寸許トナリ次第ニ砂地ニ移ル冬日嚴寒ノ時ヲ生  
 育ニ良トス○何魚ニ限テス總テ産卵ハ潮流ノ緩ニシテ

系

泥及塵埃ノ集ル所又ハ木石瓦等ニ産卵シ乎化後ハ大抵  
當海ニ生産ス

茅三款

有害物

鰻漁等ニ際シ

鱸来リ

テ其釣ニ

罹レル魚

及其糸綸ヲ

奪ヒ

去ルヲアリ

西須磨村  
調査ニヨル



第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

駒ヶ林村

本村漁業ノ創始ハ數百年前ニアリト云ヒ爾來格別ノ  
 沿革ナシ弘化二年ノ頃漁獲多キヲ以テ漁業ニ從事ス  
 ルモノ百三十餘戸アリ平均一人ニ付一日錢三百文ヲ  
 得タリ當時雜喉漕キト唱ヘ今ノウタ兵庫ヨリ二三艘  
 來ルトアリテ時ニヨレハ謝絶スルトアリシカ何分多  
 漁ナルヲ以テ之レヲ制スルトナカリシカ爾來次第ニ  
 構造ヲ換ヘウタセ網ヲ製造シ各所ニ流行スルニ至リ  
 本村モ之ヲ用ルトナリ遂ニ八艘ノ多キニ達セリ斯  
 ヲウタセ網漁業漸々増加セシ為メニ甚タ漁業ヲ妨ケ  
 明治初年以來非常ニ漁獲ヲ減少シ遂ニ漁業ヲ一途ニ

スレハ生活ニ困難ナルニ至リシヨリ商業ニ轉シ或ハ舟ニ乘リ魚ヲ出買海上漁者ニ付キ漁ヲナスモノ追々増加シ當初ハ僅ニ四五艘ナリシニ近年ハ七八十艘ノ多キニ至リ漁業頗ル衰退ヲ來セリ

東須磨村  
 明治初年ノ頃ハ村内漁者僅ニ一戸ナリシカ爾來増加ノ景況ナリ

西須磨村  
 流シ網漁ハ素ヨリ不良ナルモ慣行ニヨリ使用セシカ文政十二年ノ頃ヨリ鯛鱸ノ漁獲年々減シタルヲ以テ終ニ其使用ヲ禁シタリ是ニヨツテ天保初年ノ頃ヨリ稍復舊シテ繁榮ノ景況ヲ見ルニ至リシカ明治年代ニ至リ復々減少ノ景況トナリ加フルニウタセ網増加ノ

為ノ彌々漁獲減少シ漁民ノ困難少ナカラズ  
 以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚左表ヲ掲ケテ郡内一般ノ狀ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	東須磨村	西須磨村	合計
曳網類 數 量	一〇	二七	三六
繰網類 數 全	九	一四	五〇
敷網類 數 全		一	二
旋網類 數 全		八〇	八三
手釣類 數 本		八〇	八〇
繩釣類 數 桶		一五	一五
寄籠類 數 個		九五	一五九
漁船 數 艘		五	五

系

漁民  
數人

二〇六

七〇

一六〇

四三六

兵庫縣

茅二款 營業種別

漁業者ノ種別尤ノ如シ

種別	駒ヶ林村	東須磨村	西須磨村	合計
鰯船籠網漁者	一〇	七〇	一六〇	四一〇
鰯船魚網漁者		二五	二四	二二四
鰯船魚網漁者			二四	二二四
手網漁者				六三
鰯船手網漁者	三			一五
鰯船并純漁者			一五	三五
鰯船純漁者			一五	三五
刀魚鮭釣漁者	三			六九
鰯船網漁者			八〇	八三
真魚壺繩漁者			七〇	七〇
鰯船網漁者			七〇	七〇
鰯船網漁者	二四			二四

系

又漁業ニ関スル營業者ノ種別ヲ舉クルハ左ノ如シ

種別	普通漁者		合計
	自村	他村	
駒ヶ林村	二〇六		
東須磨村			七〇
西須磨村			二〇
合計	二〇六	二〇	三九六

備考

雇夫 大漁ノ際ニハ適宜ニ網曳ノ手傳ヲナス丁手  
 間取ニ異ナラス故ニ賃金ニ於テモ幾何卜定メカ  
 タク臨時ノ處分ヲナス依テ人負モ之ヲ確ムルヲ  
 得ス其通常使役者鰯網一疊ニ付九二十人乃至三  
 十人トス又瓢箪網ハ其使用十五六人ニシテ捕獲  
 高ノ内七分ヲ雇夫一同ニ分與スルヲ例トス  
 調査ニ本村雇ハ皆平働キニシテ其給料ハ捕獲  
 林駒ヶ

高ノ内若干  
 網網十分ノ六  
 網網十分ノ七  
 分與ス而シテ食料ハ  
 自辨トス  
 東須磨村調  
 二須磨村調  
 〇本村雇ハ皆平働キニシテ其給料ハ捕獲

兵庫縣漁業慣行錄卷之六終

兵庫縣

兵庫縣漁業慣行錄卷之六終